

プラハだよりNo.3

2017(平成 29)年 9/9

プラハ日本人学校
教諭 富岡 直樹

こちらの日本人学校の2学期は8月23日から12月18日です。夏休みは特に長いわけではないのですが、夏休みのレポートを見ると、気軽にヨーロッパの様々な国を訪れたり、習い事の合宿、久しぶりに日本に帰国した様子などがあつたりして楽しそうです。しかし、テロ事件や犯罪もあるので、日本以上に気を付けることが多いです。

台風：チェコに台風はめったに来ないようですが、国際放送では1号2号とは呼ばれず、名前では呼ばれています。そうしないと、写真のようにどこが1号なのか分からなくなってしまいます。世界中に台風（ハリケーン・サイクロン）の仲間がいるようです。



ズビロフ城遠足：1学期の総合的な学習の1つとしてミーシャ（ムハ）の学習をしました。彼はチェコ出身の有名な画家です。長い間、フランスやアメリカで活躍していたのですが、スメタナの『我が祖国〜モルダウ〜』を聞いて自分の祖国チェコの人々の歴史を絵に描くことを決意し、このズビロフ城に十数年住み込んで『スラブ叙事詩』という20枚の絵を完成させたのでした。この学習のまとめとして、プラハから車で1時間のズビロフ村に遠足に行きました。このズビロフ村で、クイズに答えながらウォークラリーをしたり、村人がモデルになって描かれた場所や城の歴史の説明を聞いたりしました。



【難関アスレチック前で】



写生会：新学期になって間もなく、ビシュフラドというところに1日写生会にいきました。この日は、小3、4年生も、この地域をウォークラリーしていて、児童生徒が行きかかっていました。観光地のビシュフラドが校庭のような雰囲気になり、おだやかな時間が過ごせました。



日本選手を応援：

サッカー日本代表選手（U17）が8/26まで、卓球日本代表選手（石川佳純、伊藤美誠、橋本、早田など）が8/27までチェコの国際大会に来ていたので、応援に行きました。サッカーはこの大会で優勝。次はインドでのワールドカップ（U17）に向かいます。驚いたのは、このチームのキャプテンは、日本人学校の先生が日本の中学校で教えていた生徒だった事です。お互い何もなくに再会したので「えっ！」と唖然として驚いていました。選手のプレイも応援も勢いづいたことはいうまでもありません。チェコとの決勝は2対0からの逆転劇でした。



卓球は16歳の伊藤美誠選手がシングルス、ダブルスともに優勝。男子シングルスは、14歳の橋本智和選手が34歳の元世界一のボル選手を破って優勝しました。この勝利は、歴史的な勝利だそうです。

サッカーも卓球も、練習から見ていましたが、直前まで徹底的に自分と相手を分析し、気持ちを集中させていました。日頃からの習慣や心構えが大切だということをお伝えされました。



プラハだよりNo.4

2017(平成 29)年 12/20

プラハ日本人学校
教諭 富岡 直樹

ヤングプラハ 演奏会

プラハは音楽の街なので、音楽を学んでいる留学生もたくさんいます。そして毎年、世界の若手音楽家の中から、特に将来が期待される人が招待されて演奏する『ヤングプラハ』という音楽祭が開かれています。プラハ日本人学校にも、その中から2人の演奏家が来てくださり、演奏会と座談会をしました。

ハナちゃんさん(14歳・バイオリン)と**稲垣拓巳**さん(16歳・ピアノ)です。どちらの演奏も一流の素晴らしいものでした。その後の座談会では、一転、中学生、高校生らしい親しみやすさを見せてくれました。ハナさんはアメリカ在住ですが、日本語で音楽や生活の事を話してくれました。稲垣さんは今年の3月まで倉敷市立の中学生でした。倉敷ジュニアオーケストラの出身です。皆さんの中に、一緒に演奏していた人もいるかもしれません。彼が演奏家になる決心をしたのは、この1月に音楽の高校入学が決まった日だそうです。それまでに、数々の実績を積み重ねていたとはいえ、高校入学というのは将来の夢への第一歩なのですね。ドボルザークホールという大会場での演奏は、圧巻でした。



交流学習

11月から12月にかけて、のべ8回、現地の学校の先生による授業や、チェコの大学生や中学生との合同授業を行いました。もちろん、使う言葉は英語です。その場に行くと、はなさざる得ない状況になるので、みんな必死ですし、終わったらグッタリしていますが、さすがに8回目になると、要領がわかってきます。右のチェコの中学生は日本とは違うチェコのクリスマスの説明をしています。



チェコのクリスマス

チェコもクリスマスは12月24日から25日にかけてありますが、サンタクロースは来ないそうです。そのかわり12月5日に各家にセントニコラスがやってきます。私も暗闇からあらわれたり、バスから降りてくるセントニコラスを何度も目撃しました。ニコラスは日本のナマハゲのような存在で、よい子には飴をくれるのですが、悪い子はお仕置きをするのです。あまりに怖いので、子どもを脅してはいけないという法律ができたほどです。そして、ケーキは食べません。魚の鯉やクッキーを食べます。チェコの町の広場では12月になるとツリーが飾られ、クリスマスマーケットという屋台のお店が並びます。このマーケットは31日まで続き、31日の夜にはジルベスター(新年)花火が打ち上げられます。一般の人も、かなりの数を打ち上げるそうです。



それでは、みなさんの平成30年が良い年になりますように。プラハから祈っています。良い年をお迎えください。



【用務員の先生がつくってくれた鯉のサワークリーム煮】



プラハだより No.5

プラハ日本人学校
教諭 富岡 直樹

みなさん。ドブリーデン!今年度も終わろうとしていますね。

チェコ日本協会新年コンサート

中学部と5,6年生で年末からチェコの生徒と一緒にすすめてきた新年コンサートの練習。本番は由緒ある宮殿のステージで行われました。練習や発表を通してチェコの生徒と一つになりました。伴奏はチェコフィルの金管五重奏とピアノです。このメンバーに日本人の演奏家二名も含まれています。金管五重奏の演奏会も本物の奥深さのある演奏でした。また、サプライズで日本大使館の大使(外交官)と中学生のフルート演奏も見事なものでした。大使は中学校の部活ではじめてから、ずっと演奏を続けてこられたそうです。忙しくても、続けることの大切さをあらためて教えられました。



スキー教室

4年生以上で2泊3日のスキー教室に行きました。最高の雪質とレベルごとの指導で、初めての人も上級の人もみるみるうちに上達しました。最後はスラローム大会をしました。



百人一首大会

光南台中でもやっていた百人一首を、こちらでも中学部で行いました。何百年も前のものなのに不思議と本気になってしまいます。覚えるのを面倒に思っていた人もしっかりと覚えて取っていました。日本の古典の世界が自然と体に染みこんでいました。



ゲストティーチャー

今年には多くのゲストティーチャーがいっぱいでした。これまでに紹介した方のほかに先生の夫がギタリストだったり、児童のお母さんがオペラ歌手だったり、世界中で演奏されている尺八奏者の方が来てくださったりと盛りだくさんでした。来週は、チェコ人の狂言公演があります。来年もどんな内容が出てくるのか楽しみです。



新年度に向けて

プラハ日本人学校は小学部と中学部と一緒に生活しているので、小1から中3までつながっているような感覚になります。中1は、来年、進学する6年生への太鼓の指導をしていますが、次が最後の指導です。大詰めになってきました。



また、体力向上月間メニューもステップダンス、縄跳び、持久走をやってきましたが、今は長縄跳びをしています。部活がないので、クラブチームでスポーツをしている人が多いです。でも、冬は日の出が8時。日の入が16時。しかも寒いので、体を動かす機会が減ります。そんなとき、競い合ったり、みんなでやったり、最後に大会を開いたりすると自然と体を動かすことになっています。



来週は期末考査。終業式は3月16日。帰国する人も来チェコする人も大勢います。出会いと別れが毎月のように繰り返される日本人学校です。光南台中学校も新しい出会いと別れが訪れることでしょう。今を大切に、悔いのない中学校生活をお過ごしください。

【ダンシングビル：左がドレスを着た女性。右が女性を支える男性に見えますか？】

